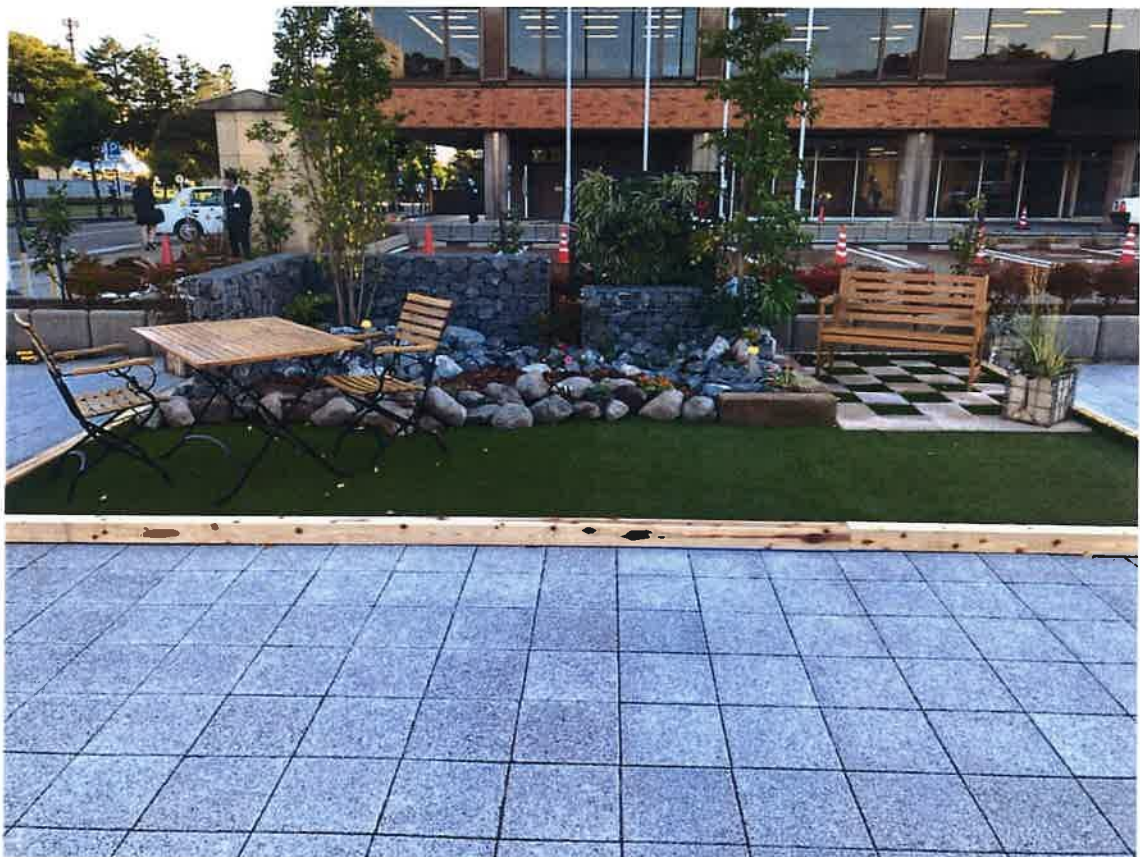


緑の相談広場

～緑と花の市民講座～

お庭の年間管理



一般社団法人石川県造園緑化建設協会 金沢支部

目 次

樹木の管理について

庭仕事年間管理計画表	1
1 樹木の剪定	2～ 6
2 樹木への施肥	7～ 9
3 樹木の雪吊り	10～11

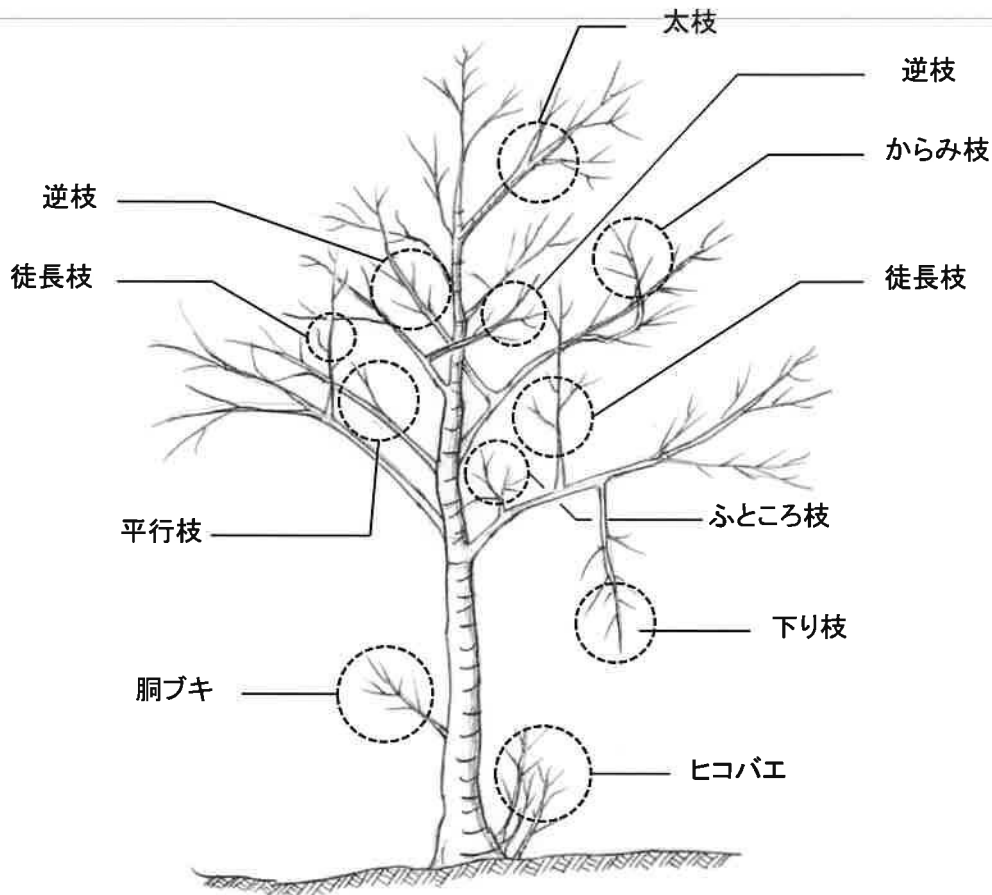
庭仕事年間管理計画表

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	作業回数		
樹木管理	剪定															
	常緑樹		●	—	●			●	—	●				1~2		
	(花木は花芽形成を考慮して実施する。)															
	落葉樹				●	—	●			●	—	●		1~2		
	(積雪地)				●	—	●			●	—	●				
	(花木は花芽形成を考慮して実施する。)															
	刈込		●	—	●	—	●	—	●					1~3		
	施肥															
	(積雪地)	●	—	●						●	—	●		1~2		
	(花の咲いた後に実施する。)															
	病虫害防除		●	—	●	—	●							適宜		
	(発生状況により実施する。)															
	幹巻き		●	—	●									1		
	(日焼け保護のため実施する。)															
雪吊り									●	—	●		1			
つる除去		●	—	●	—	●	—	●					1			
(落葉期は除く)																
芝生管理	刈込		●	—	●	—	●	—	●					適宜		
	目土	●	—	●					●	—	●		1~2			
	施肥	●	—	●	—	●						●	—	●	1~3	
	病虫害防除	●	—	●	—	●	—	●					●	—	●	適宜
	除草	●	—	●	—	●	—	●							適宜	
	上記芝生管理は日本芝(コウライ芝、野芝)の場合です。															

1 庭木の剪定

1 剪定の基本

まず、病害虫におかされた枝や枯れ枝は切り取ります。
次に、樹木、樹形に関係なく除去すべき枝には、図のようにヒコバエ、胴ブキ、からみ枝、徒長枝、逆枝、ふところ枝などがあります。

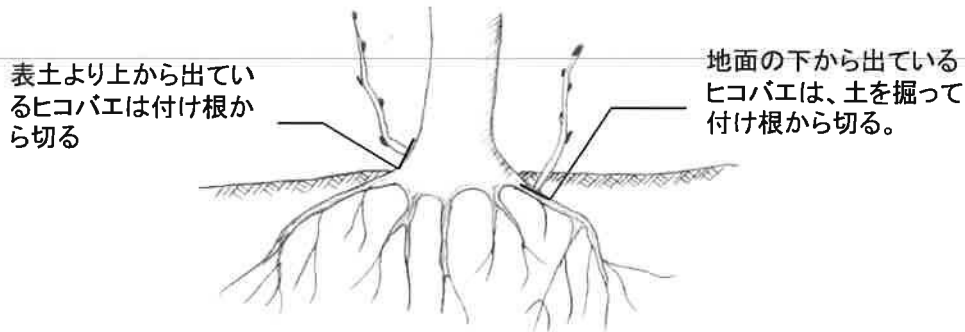


これらの枝は、そのままにしておくと樹形を乱し、他の枝の成長を妨げるもので、特に勢いが強い枝は、木のバランスを乱し、養分を取りすぎて他の枝の生長を妨げます。

これらの枝は、いつでも剪定することができますが、特に落葉期のほうが枝の形がよく見えて剪定しやすいと言えます。

・ヒコバエ

地際から出てくる枝で、株立ちの木では、残すこともあります。1本立ちの木では、養分を取られ、木が弱るので切ります。付け根から切らないと来年も出てくる可能性があります。ヒコバエは、木の勢いが弱っているとき、発生することがあります。



・胴ブキ

幹から小枝が発生し、養分を吸収し、木を弱らせるので剪定します。

・ふところ枝

樹冠の内側にある細くて弱い枝で、日当たりと風通しを悪くするので付け根から切ります。

・からみ枝

他の枝に絡むような枝で、樹形を乱すので剪定します。

・徒長枝

直線に勢い良く伸びる枝で、樹形を乱し、養分を取るため、剪定します。

・太枝

美観を損ねるため剪定します。

・逆枝

通常に伸びる方向と逆方向に伸びる枝で、樹形を乱すので剪定します。

・下り枝

しだれる性質の樹種以外で、下に向かって伸びる枝で、樹形を乱すので剪定します。

・平行枝

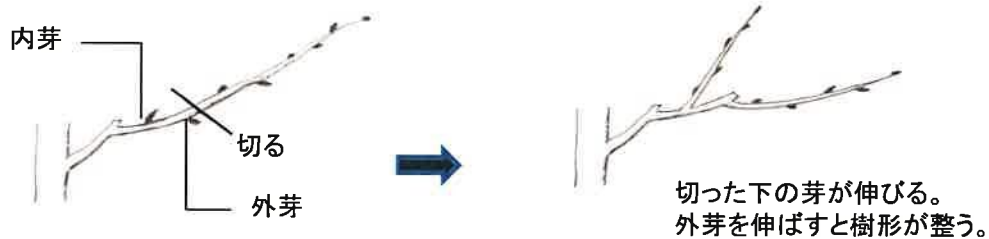
主枝と平行に伸びる枝で、美観を損ねるため剪定します。

2 枝の切り方

・芽と枝の切り方(内芽と外芽)

枝から出る芽は、幹側につく「内芽」と反対側につく「外芽」があります。剪定は、外芽のすぐ上で切ります。内芽の上で切ると内側に枝が伸び、日当たり、風通しが悪くなり、樹形も乱れます。

芽の上を切るときは、芽の少し上を伸びる方向に斜めに切ります。芽の上を長く残すと枯れ、短すぎると芽が乾き伸びなくなります。



・太い枝と細い枝の切り方(付け根から切る場合)

細い枝

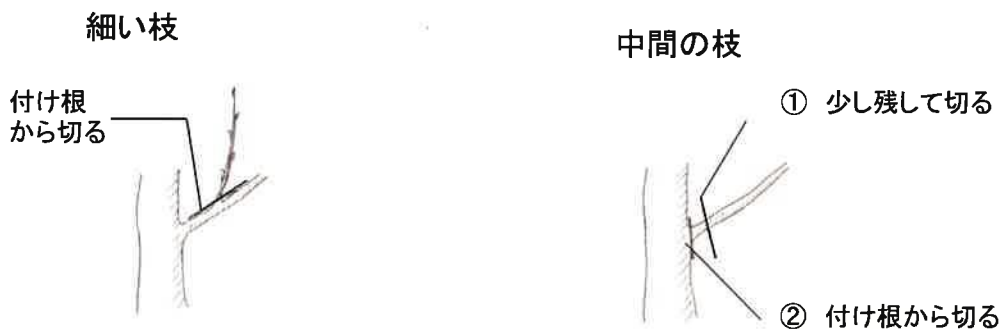
植木ばさみや剪定ばさみを用い、付け根から切り落とします。切り口がなめらかなようになるようにぎりぎりのところで切ります。

中間の枝

剪定ばさみを用い、まず少し枝を残して切り、次に残った部分をギリギリのところで切ります。

太い枝

のこぎりを用い、幹が割けないように、3回に分けて切ります。



太い枝



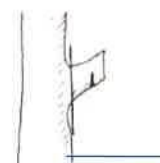
一度に切ると枝の重さで幹が割ける

×



② ①より少し上で切る

① 下から切れ目を入れる



③ 付け根で切り落とす

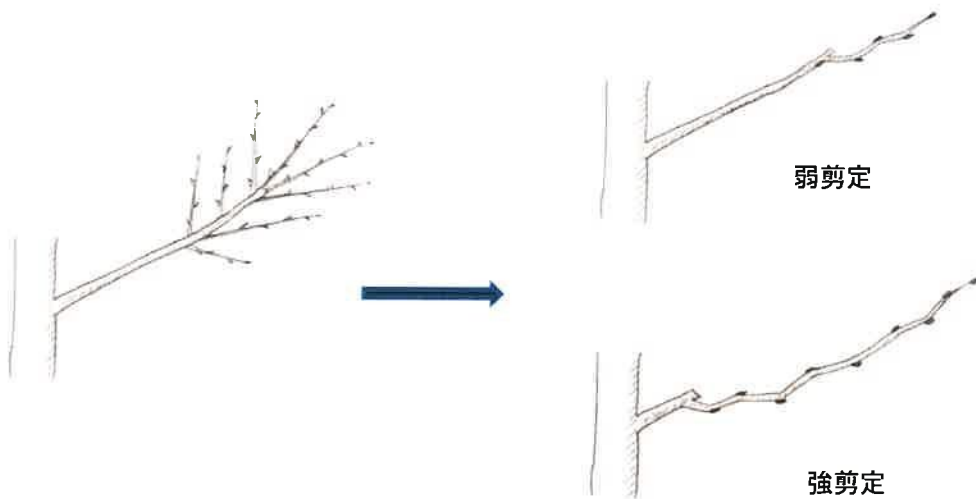
○

・強剪定と弱剪定

枝は、剪定しないで伸ばしておくと、先端に細い枝が発生します。

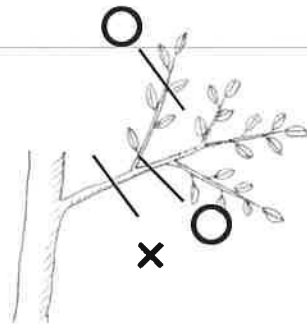
根元のほうから思い切って切り戻すと(強剪定)残った芽から勢いのある長い枝が出ます。

先のほうを少しだけ切ると(弱剪定)短い枝が出ます。



・ツバキなどの常緑樹の剪定

ウメなどは剪定して葉がなくなっても芽が出てきますが、ツバキなどの常緑樹では、葉のない枝からは芽が出にくくなるため、枝を更新するときは、葉のある枝を残して剪定します。



2 樹木への施肥

2-1 肥料の3大要素

樹木の生育に必要な養分は10数種類あるが、土の中に不足するものとして、窒素(N)、リン酸(P)、カリ(K)があげられる。この3つの成分は、樹木が健全に成長するには、欠かせない成分で、その主たる役割は次に示すとおりである。

成分	主な働き	肥料過多	不足の場合
窒素(N)	葉の色を濃くし、茎を太く高く、生育を促進させる。「葉肥」	葉色が濃すぎ、枝が徒長、病気になりやすく、花付きが悪い	葉色が悪くなり、生育不良
リン酸(P)	花付きや結実を促進。「花肥」、「実肥」	鉄、カルシウムなどと結合して、土中に残りやすい。やり過ぎの害はあまりない。	花数が減少したり、開花や結実が不良
カリ(K)	主に根や茎葉の発育を促進し、抵抗力をつける。「根肥」「茎肥」	石灰や苦土の吸収を妨げる	葉の先端が褐色となる。根が発育不良となる

2-2 肥料の効果

- ・ **元肥** 樹木を植栽する時に、植穴の底に緩効性肥料を入れる。根と肥料が接触すると根が傷むので、元肥の上に土を盛る。
- ・ **お礼肥** 花の終わった後や果実を収穫した後に樹勢を回復させるために与える肥料で、速効性肥料を与える。
- ・ **追肥** 肥料は適切な時期に数回に分けて施肥する必要がある。後から施す肥料を追肥という。
- ・ **寒肥** 春、樹木の生育が旺盛な時期に効き目が現れるように、冬の間を与える肥料。緩効性肥料が適している。(1月～2月)
- ・ **芽だし肥料** 春の萌芽期、根の活動が盛んになる頃、萌芽や枝の伸長を助けるために、施す肥料。速効性肥料を与える。(3月～4月)

- ・ **秋肥** 9月頃に花芽の充実や、耐寒性をつけるために施す肥料。リン酸やカリ分の多い緩効性肥料を与える。
- ・ **水肥** 水やり代わりに施す液体肥料。育苗期や肥料切れを起こした時に与える。希釈して与えるものと、そのまま使用するものがある。

2-3 肥料の種類

■ 有機性肥料と無機質肥料

・ 有機性肥料

堆肥、油かす、鶏糞、草木灰など、動植物を原料とする有機質の肥料。土の中の微生物などで、分解するので、土質の改良にも役立つ。主に緩効性肥料とされる。

・ 無機質肥料

様々な肥料原料を配合し、科学的に合成された肥料。N-P-Kの3大要素を中心に配合され、その割合により、特色のある効果を持つ。施肥の時期や量を間違えると根を傷める恐れがある。一般的に速効性肥料とされるが、緩効性のものもある。

■ 緩効性肥料と速効性肥料

・ 緩効性肥料

ゆっくりと効果が現れる肥料。最近では表面を被膜でコーティングし、肥料の効き目を人工的にコントロールしたものなどがある。効果の持続が長く、形状は固形が多い。

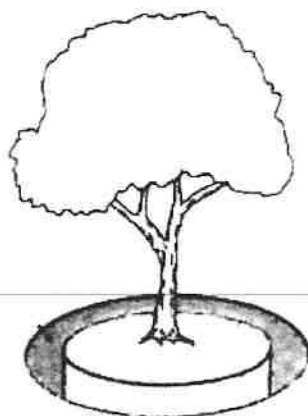
・ 速効性肥料

効果がすぐ現れる肥料。効果の持続が短い。形状は液体と水に溶かす粉末タイプもある。

・ 単肥と複合肥料

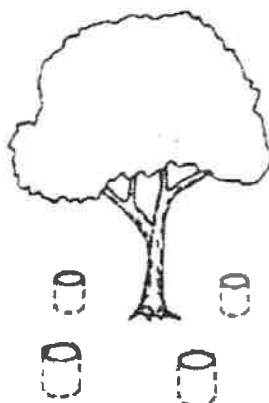
化成肥料で成分が一つだけなら単肥。成分が二つ以上含まれている肥料を複合肥料と言う。ホームセンターで販売されているほとんどが複合肥料。

2-4 施肥の方法



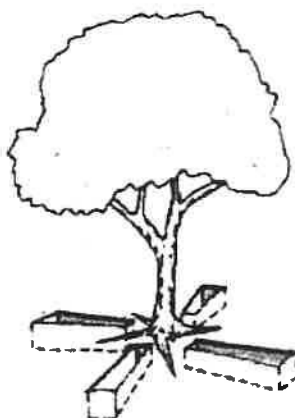
環状施肥

木のまわりに深さ20cmから30cmの溝を掘り、肥料を与える方法。
溝の位置は枝の先を目安にする。



つぼ状施肥

木の周りに深さ30cmから40cmほどの穴を掘り肥料を埋めていく方法。
木と木の間がせまい時や、生垣などに行う。



放射状施肥

根と根の間に沿って放射状に溝を掘り肥料を与える方法。
主と浅根性の樹木に行われ、溝の位置は年ごとに変わる。
他にツツジなどの植え込み、寄せ植えは肥料を根本にばらまく方法もあります。

3 樹木の雪吊り

雪の多い地方、特に北陸では、雪に水分を多く含み、重くなるため、積雪による枝折れ等の被害が起こりやすくなる。このような雪害を防ぐため、冬に備え、様々な方法で雪吊りを施す。

この雪吊りは、雪による樹木の被害を防止することが目的であるが、冬の庭園の美しさを表す一つの景観となり、金沢の代表的な冬の風物詩ともなっている。

■雪吊りの種類

1 りんご吊り

中、高木を対象に、丸太や竹の芯柱を立て、柱頭から四方に藁縄を樹木の大きさ、枝張りに応じ、あらかじめ決めた本数を垂らし、枝を吊る。

芯柱の長さは、吊り縄が45～50度の円錐形に開くよう、樹高と枝張りのバランスで決める。

2 幹吊り

りんご吊りのできない大木や片枝の木などを対象に、直接幹の上部に縄を掛け、そこから縄を数十本垂らして、下の枝を吊る。

1箇所だけでなく、数箇所から吊る場合もある。

3 竹又吊り

寄せ植えの低木や枝張りのある低木を対象に、竹を等間隔に3～4本立て、先端を結束し、そこから縄を下げて、枝を絞り上げて吊る。

りんご吊りと絞りの組み合わせ。

4 絞り

低木の枝を縄で絞り上げて、枝折れを防ぐ方法である。樹木の大きさに応じ、「大、中、小絞り」、竹を3本立てる「三又絞り」、4本立てる「四又絞り」、芯に竹を1本立てて絞る「竹立て絞り」、生垣を対象とした「竹ばさみ」等がある。

カンコ(綱取竿) 吊り縄をさばくための道具



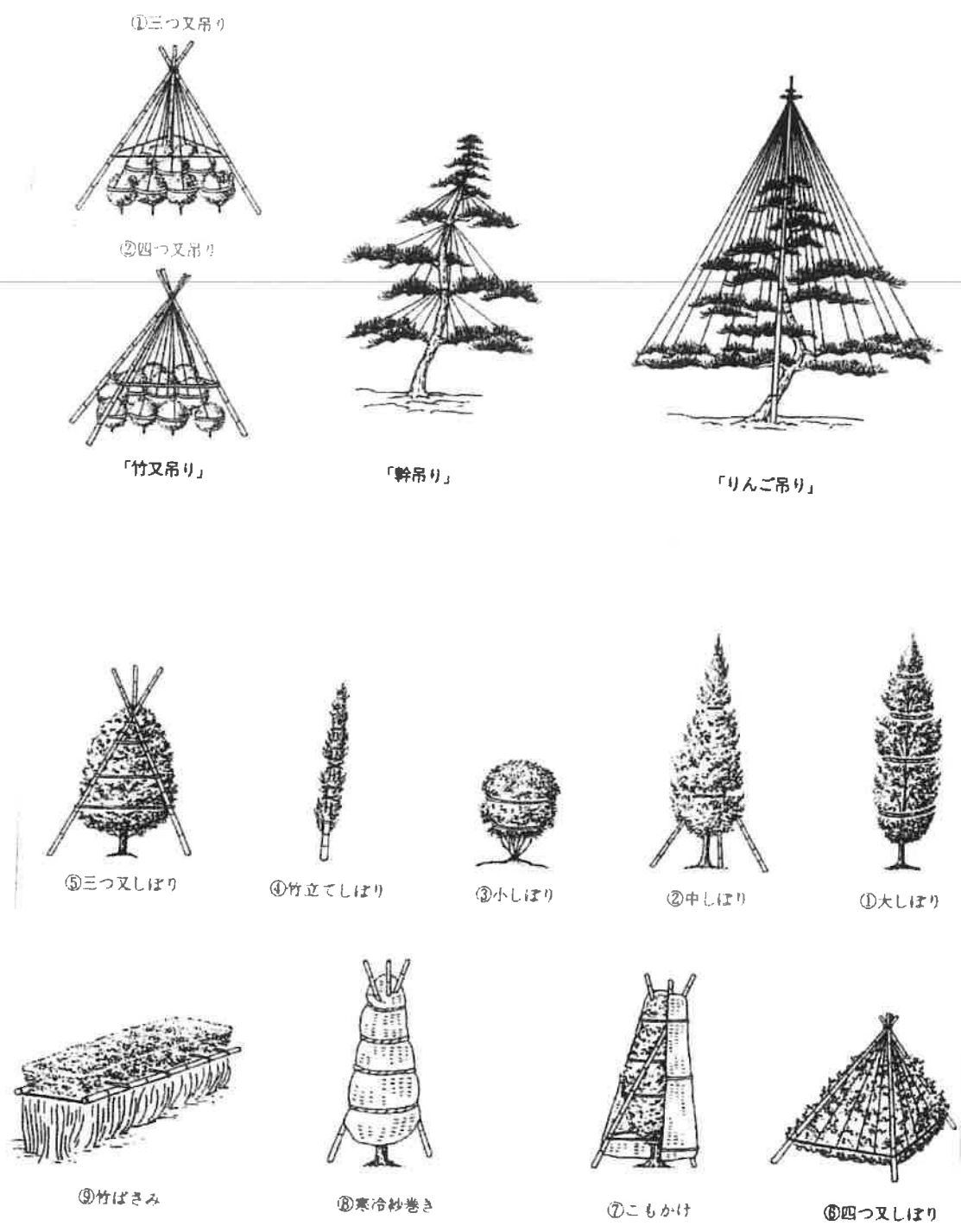


図 13 雪吊りの種類